

平成24年度採択プログラム 中間評価調書

博士課程教育リーディングプログラム プログラムの概要 [公表。ただし、項目13については非公表]

機関名	千葉大学	整理番号	O03
1. 全体責任者 (学長)	※共同実施のプログラムの場合は、全ての構成大学の学長について記入し、取りまとめを行っている大学(連合大学院によるもの場合は基幹大学)の学長名に下線を引いてください。 (ふりがな) とくひさ たけし 氏名・職名 徳久 剛史 (千葉大学学長)		
2. プログラム責任者	(ふりがな) なかや はるあき 氏名・職名 中谷 晴昭 (千葉大学理事(企画担当))		
3. プログラム コーディネーター	(ふりがな) なかやま としのり 氏名・職名 中山 俊憲 (千葉大学大学院医学研究院長・高次機能治療学研究講座・教授)		
4. 類型	○ <オンリーワン型>		
5.	プログラム名称	免疫システム調節治療学推進リーダー養成プログラム	
	英語名称	Nurture of Creative Research Leaders in Immune System Regulation and Innovative Therapeutics	
	副題		
6. 授与する博士学位分野・名称	医学、薬学分野・博士(医学)または博士(薬学)		
7. 主要分科	(①) (②) (③) ※ 複合領域型は太枠に主要な分科を記入 基礎医学、内科系臨床医学、外科系臨床医学		
	(① 免疫学) (② 膠原病・アレルギー内科学) (③ 消化器外科学) ※ オンリーワン型は太枠に主要な細目を記入		
8. 主要細目			
9. 専攻等名 (主たる専攻等がある場合は下線を引いてください。)	大学院医学薬学府 先端医学薬学専攻		
10. 共同教育課程を設置している場合の共同実施機関名			
11. 連合大学院として参画している場合の共同実施機関名			
12. 連携先機関名(他の大学等と連携した取組の場合の機関名、研究科専攻等名)	独立行政法人 理化学研究所 統合生命医科学研究センター 独立行政法人 放射線医学総合研究所 重粒子医科学センター		

(機関名:千葉大学 類型:オンリーワン型 プログラム名称:免疫システム調節治療学推進リーダー養成プログラム)

14. プログラム担当者の構成 計 55 名

外国人の人数	7 人	[12.7 %]	女性の人数	3 人	[5.5 %]
プログラム実施大学に属する者の割合 [63.6 %]					
プログラム実施大学に属する者			35 人	プログラム実施大学以外に属する者	
そのうち、他大学等を経験したことのある者			32 人	そのうち、大学等以外に属する者	

15. プログラム担当者

氏名	フリガナ	年齢	所属(研究科・専攻等)・職名	現在の専門学位	役割分担 (平成26年度における役割)
(プログラム責任者) 中谷 晴昭	ナカヤ ハルアキ		千葉大学理事(企画)	薬理学・博士(医学)	プログラムの実施・統括
(プログラムコーディネーター) 中山 俊憲	ナカヤマ トシノリ		大学院医学研究院・医学研究院長、高次機能治療学研究講座・教授	免疫学、アレルギー学・博士(医学)	プログラムの企画・運営の統括
荒野 泰	アライ ヤスシ		大学院薬学研究院・創薬資源科学講座・教授	分子イメージング薬理学・博士(薬学)	プログラムの企画・運営担当、サブプログラムコーディネーター、大学院教育統括 薬学担当
斎藤 哲一郎	サイノウ テツイロウ		大学院医学研究院・高次機能治療学研究講座・教授	発生生物学・博士(理学)	プログラムの企画・運営担当、サブプログラムコーディネーター、研究教育進捗評価・自己点検委員会委員長
岡本 美孝	オカモト ヨシタカ		大学院医学研究院・先端がん治療学研究講座・教授	頭頸部癌治療アレルギー学・博士(医学)	プログラムの企画・運営担当、サブプログラムコーディネーター、アレルギーセンター教育統括
川瀬 貴之	カワセ タカキ		大学院人文社会科学部研究科・法哲学講座・准教授	法哲学、生命倫理学・博士(法学)	大学院教育 生命倫理担当
横須賀 収	ヨコスカ オサム		大学院医学研究院・消化器治療学研究講座・教授	消化器内科学・博士(医学)	大学院教育統括 医学担当
丹沢 秀樹	ニザワ ヒデキ		大学院医学研究院・先端がん治療学研究講座・教授	歯科口腔外科学・博士(医学)	大学院教育実施責任者 医学領域担当
山口 直人	ヤマグチ ナオト		大学院薬学研究院・大学院医学薬学府長、ゲノム創薬学講座・教授	細胞生物学・博士(薬学)	大学院教育実施責任者 医学薬学府担当
西田 篤司	ニシダ アツシ		大学院薬学研究院・分子医薬科学講座・教授	有機合成化学・博士(薬学)	治療学コースワーク実施責任者 薬学担当
瀧口 正樹	タキグチ マサキ		大学院医学研究院・神経治療学研究講座・教授	生化学・博士(医学)	大学院教育実施責任者 医学薬学府担当
宮崎 勝	ミヤザキ マサル		大学院医学研究院・消化器治療学研究講座・教授	肝胆臓外科学・博士(医学)	大学院教育実施責任者 医学部附属病院担当
松原 久裕	マツハラ ヒサヒロ		大学院医学研究院・消化器治療学研究講座・教授	消化器外科学・博士(医学)	治療学コースワーク実施責任者 医学担当
岡田 忍	オカダ シノブ		大学院看護学研究科・基礎看護学講座・教授	基礎看護学・博士(医学)	大学院教育実施責任者 看護学領域担当
酒井 郁子	サカイ イコ		大学院看護学研究科・独立専攻看護システム管理学講座・教授	ケア施設看護システム管理学・博士(保健学)	治療学コースワーク実施責任者 看護学担当
羽田 明	ハネ アキラ		大学院医学薬学府副学長、大学院医学研究院・環境健康科学講座・教授	公衆衛生学・博士(医学)	シーズ開発教育セッション演習担当
森 千里	モリ チカト		大学院医学研究院・環境健康科学講座・教授	環境医学発生学・博士(医学)	シーズ開発教育セッション演習担当
横手 幸太郎	ヨコテ コウタロウ		大学院医学研究院・高次機能治療学研究講座・教授	内科学・博士(医学)	臨床実践セッション演習担当、キャリアパス支援委員会委員長
花岡 英紀	ハナオカ ヒデキ		医学部附属病院・臨床試験部長・教授、未来医療教育研究センター長	医薬品評価学・博士(医学)	治療学コースワーク実施責任者 COPP担当、未来医療教育研究センター教育担当、産学官連携委員会委員長
本橋 新一郎	モトハシ シンイチロウ		大学院医学研究院・先端がん治療学研究講座・教授	腫瘍免疫学呼吸器外科学・博士(医学)	治療学コースワーク実施責任者 CVPP担当、未来医療教育研究センター教育担当、国際交流委員会委員長

(機関名:千葉大学 類型:オンリーワン型 プログラム名称:免疫システム調節治療学推進リーダー養成プログラム)

15. プログラム担当者一覧(続き)

氏名	フリガナ	年齢	所属(研究科・専攻等)・職名	現在の専門 学位	役割分担 (平成26年度における役割)
米山 光俊	ヨネヤマ ミツシ		真菌医学研究センター・教授	ウイルス学免疫学・博士(理学)	治療学コースワーク実施責任者 真菌医学研究センター教育担当
下条 直樹	シノヅメ ナキ		大学院医学研究院・高次機能治療学研究講座・教授	小児科学・博士(医学)	治療学コースワーク実施責任者 アレルギーセンター教育担当
中島 裕史	ナカジマ ヒロシ		大学院医学研究院・高次機能治療学研究講座・教授、医学部附属病院アレルギーセンター長	アレルギー病学・博士(医学)	アレルギーセンター教育担当、基礎・臨床統合委員会委員長
松江 弘之	マツイ ヒロユキ		大学院医学研究院・生命機能治療学研究講座・教授	皮膚科学・博士(医学)	アレルギーセンター教育担当
三木 隆司	ミキ タカシ		大学院医学研究院・高次機能治療学研究講座・教授	生理学・博士(医学)	シーズ開発教育セッション演習担当、入試・教務委員会委員長
岩間 厚志	イワマ アツシ		大学院医学研究院・高次機能治療学研究講座・教授	幹細胞生物学・博士(医学)	シーズ開発教育セッション演習担当、入試・教務委員会副委員長
齊藤 和季	サイトウ カズキ		大学院薬学研究院・ゲノム機能学講座・教授	遺伝子資源応用学・博士(薬学)	前臨床開発教育セッション演習担当
高山 廣光	タカヤマ ヒロミツ		大学院薬学研究院・薬学研究院長、創薬資源科学講座・教授	創薬化学・博士(薬学)	前臨床開発教育セッション演習担当
遠藤 剛	エントウ タケシ		大学院理学研究科・分子細胞生物学講座・教授	分子細胞生物学・博士(医学)	シーズ開発教育セッション演習担当
石川 裕之	イシカワ ヒロユキ		大学院理学研究科・分子細胞生物学講座・准教授	分子生物学・博士(理学)	シーズ開発教育セッション演習担当
金田 篤志	カナダ アツシ		大学院医学研究院・高次機能治療学研究講座・教授	癌ヒゲノミクス・博士(医学)	シーズ開発教育セッション演習担当、治療学コースワーク実施担当
植松 智	ウエマツ サトシ		大学院医学研究院・高次機能治療学研究講座・教授	免疫学・博士(医学)	シーズ開発教育セッション演習担当、広報委員会副委員長
田村 裕	タムラ ユカ		大学院医学研究院・高次機能治療学研究講座・准教授	生命情報科学・博士(医学)	治療学コースワーク実施担当、広報委員会委員長
坂根 郁夫	サカネ フミオ		大学院理学研究科・機能物質化学領域・教授	生化学・博士(薬学)	シーズ開発教育セッション演習担当
村田 武士	ムラタ タケシ		大学院理学研究科・機能物質化学領域・教授	構造生物学・博士(工学)	シーズ開発教育セッション演習担当
笹川 千尋	ササガキ ヒロ		一般財団法人 日本生物科学研究所・常務理事、千葉大学真菌医学研究センター長	感染症学・博士(医学)	大学院教育実施責任者 真菌医学研究センター担当
鎌田 正	カマタ マサシ		(独)放射線医学総合研究所 重粒子医科学センター長(大学院医学研究院・客員教授)	重粒子線治療学・博士(医学)	先進医療研修(放医研)責任者
山田 滋	ヤマダ シゲル		(独)放射線医学総合研究所 重粒子医科学センター 治療第2治療室長(大学院医学研究院・客員教授)	重粒子線治療学・博士(医学)	先進医療研修(放医研)担当
古関 明彦	コセキ アキヒコ		(独)理化学研究所 統合生命医科学研究センター 免疫器官形成研究グループディレクター(大学院医学研究院・客員教授)	発生生物学・博士(医学)	シーズ開発教育セッション演習 理研統括
小原 収	オハラ オサム		(独)理化学研究所 統合生命医科学研究センター 統合ゲノミクス研究グループディレクター(大学院医学研究院・客員教授)	生物物理学・分子生物学・博士(理学)	シーズ開発教育セッション演習 理研担当
谷内 一郎	タニウチ イチロウ		(独)理化学研究所 統合生命医科学研究センター 免疫転写制御研究グループディレクター(大学院医学研究院・客員教授)	分子生物学・博士(医学)	シーズ開発教育セッション演習 理研担当、理研インターナショナルサマープログラム担当
石川 文彦	イシカワ フミヒコ		(独)理化学研究所 統合生命医科学研究センター ヒト疾患モデル研究グループディレクター(大学院医学研究院・客員准教授)	ヒト免疫学・博士(医学)	シーズ開発教育セッション演習 理研担当
小泉 信一	コイズミ シンイチ		ラクオリア創薬(株) 専務執行役員 最高科学責任者(CSO)(大学院医学研究院・客員教授)	創薬研究マネジメント・博士(理学)	CCPP実践教育担当・インターンシップ担当
河野 剛志	カノ タケシ		日本ベーリンガーインゲルハイム(株) 事業開発&ライセンシング部マネジャー(大学院医学研究院・客員教授)	呼吸器疾患分子生物学・博士(医学)	CCPP実践教育担当・インターンシップ担当
山下 徹	ヤマシタ トオル		日産化学工業(株) 医薬品事業部 企画開発部長(大学院医学研究院・客員教授)	薬理学・博士(薬学)	CCPP実践教育担当

(機関名:千葉大学 類型:オンリーワン型 プログラム名称:免疫システム調節治療学推進リーダー養成プログラム)

16. プログラムの応募学生数、合格者数及び受講学生数

本学位プログラムの過去3年間のリーディングプログラム応募学生数等について記入してください。

(各年度3月31日現在(ただし平成27年度は提出日現在))

	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度 *(今後の募集予定: 有・〇無)	
プログラム募集定員数(実数)	—	10人	10人	10人	
① 応募学生数	—	118人	120人	102人	
	うち留学生数	—	4人	6人	7人
	うち自大学出身者数	—	60人(1人)	49人(0人)	49人(0人)
	うち他大学出身者数	—	58人(3人)	71人(6人)	53人(7人)
	うち社会人学生数	—	103人(0人)	97人(0人)	85人(0人)
うち女性数	—	30人(3人)	39人(4人)	28人(6人)	
② 合格者数	—	14人	15人	13人	
	うち留学生数	—	2人	2人	2人
	うち自大学出身者数	—	13人(1人)	11人(0人)	9人(0人)
	うち他大学出身者数	—	1人(1人)	4人(2人)	4人(2人)
	うち社会人学生数	—	9人(0人)	10人(0人)	7人(0人)
うち女性数	—	2人(1人)	6人(1人)	3人(2人)	
③ ②のうち受講学生数	—	14人	15人	13人	
	うち留学生数	—	2人	2人	2人
	うち自大学出身者数	—	13人(0人)	11人(0人)	9人(0人)
	うち他大学出身者数	—	1人(1人)	4人(2人)	4人(2人)
	うち社会人学生数	—	9人(0人)	10人(0人)	7人(0人)
うち女性数	—	2人(1人)	6人(1人)	3人(2人)	
プログラム合格倍率(①応募学生数/②合格者数)(小数点第二位を四捨五入)	—	8.43倍	8.00倍	7.85倍	
充足率(合格者数/募集定員)	—	140.00%	150.00%	130.00%	

※うち自大学出身者数、うち他大学出身者数、うち社会人学生数、うち女性数の()には留学生数を内数で記入してください。

※平成27年度*(今後の募集予定:有・無)については、平成27年度内に受講を開始する学生を募集予定の場合(秋入学等)は「有」に、募集予定がない場合は「無」に印を付けてください。また、有の場合は、プログラム募集定員数(実数)欄には募集予定人数を含めず、下記備考欄へ募集時期とともに記載してください。

※編入学生がいる場合は、年度ごとの内訳を備考欄に記入してください。

17. 学位プログラムの受講学生数・修了(予定)者数
各年度における本学位プログラムの受講学生数を記入してください。

①区分制及び一貫制博士課程

(各年度3月31日現在(ただし平成27年度は提出日現在))

学位プログラムの受講学生数等	平成24年度						平成25年度						平成26年度						平成27年度						平成28年度	平成29年度
	M1(D1)	M2(D2)	D1(D3)	D2(D4)	D3(D5)	計	M1(D1)	M2(D2)	D1(D3)	D2(D4)	D3(D5)	計	M1(D1)	M2(D2)	D1(D3)	D2(D4)	D3(D5)	計	M1(D1)	M2(D2)	D1(D3)	D2(D4)	D3(D5)	計		
平成24年度選抜						0						0						0						0		
うち留学生数						0						0						0						0		
うち自大学出身者数						0						0						0						0		
うち他大学出身者数						0						0						0						0		
うち社会人学生数						0						0						0						0		
うち女性数						0						0						0						0		
平成25年度選抜						0						0						0						0		
うち留学生数						0						0						0						0		
うち自大学出身者数						0						0						0						0		
うち他大学出身者数						0						0						0						0		
うち社会人学生数						0						0						0						0		
うち女性数						0						0						0						0		
平成26年度選抜						0						0						0						0		
うち留学生数						0						0						0						0		
うち自大学出身者数						0						0						0						0		
うち他大学出身者数						0						0						0						0		
うち社会人学生数						0						0						0						0		
うち女性数						0						0						0						0		
平成27年度選抜						0						0						0						0		
うち留学生数						0						0						0						0		
うち自大学出身者数						0						0						0						0		
うち他大学出身者数						0						0						0						0		
うち社会人学生数						0						0						0						0		
うち女性数						0						0						0						0		
計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
修了者数																										
就職者数																										
プログラム対象学生以外で、プログラムのカリキュラムの一部を受講している学生数																										

※「16. プログラムの応募学生数、合格者数及び受講学生数」と整合性を取ってください。

※「修了者数」の平成27、28、29年度については、修了予定者数を記入してください。

※就職者にはプログラムを修了後に就職した者(起業した者も含む)のみをカウントしてください。

※辞退者(Q.Eによるものも含む)がいる場合は、年度毎の内訳およびその理由を備考欄に記入してください。

17. 学位プログラムの受講学生数・修了(予定)者数

各年度における本学位プログラムの受講学生数を記入してください。

②医・歯・薬・獣医学の4年制博士課程

(各年度3月31日現在(ただし平成27年度は提出日現在))

学位プログラムの受講学生数等	平成24年度					平成25年度					平成26年度					平成27年度					平成28年度	平成29年度
	D1	D2	D3	D4	計	D1	D2	D3	D4	計	D1	D2	D3	D4	計	D1	D2	D3	D4	計		
平成24年度選抜					0					0					0					0		
うち留学生数					0					0					0					0		
うち自大学出身者数					0					0					0					0		
うち他大学出身者数					0					0					0					0		
うち社会人学生数					0					0					0					0		
うち女性数					0					0					0					0		
平成25年度選抜					14					14					14					13		
うち留学生数					2					2					2					2		
うち自大学出身者数					13					13					13					12		
うち他大学出身者数					1					1					1					1		
うち社会人学生数					9					9					9					8		
うち女性数					2					2					2					2		
平成26年度選抜					15					15					15					15		
うち留学生数					2					2					2					2		
うち自大学出身者数					11					11					11					11		
うち他大学出身者数					4					4					4					4		
うち社会人学生数					9					9					9					10		
うち女性数					6					6					6					6		
平成27年度選抜					13					13					13					13		
うち留学生数					2					2					2					2		
うち自大学出身者数					9					9					9					9		
うち他大学出身者数					4					4					4					4		
うち社会人学生数					7					7					7					7		
うち女性数					3					3					3					3		
計	0	0	0	0	0	14	0	0	0	14	15	14	0	0	29	13	15	13	0	41		
修了者数						0					0					0					0	13
就職者数						0					0											
プログラム対象学生以外で、プログラムのカリキュラムの一部を受講している学生数						0					0					0						

※「16. プログラムの応募学生数、合格者数及び受講学生数」と整合性を取ってください。

※「修了者数」の平成27、28、29年度については、修了予定者数を記入してください。

※就職者にはプログラムを修了後に就職した者(起業した者も含む)のみをカウントしてください。

※辞退者(Q.E.によるものも含む)がいる場合は、年度毎の内訳およびその理由を備考欄に記入してください。

リーダーを養成するプログラムの概要、特色、優位性

(広く産学官にわたりグローバルに活躍するリーダー養成の観点から、本プログラムの概要、特色、優位性を記入してください。)

<概要>

外界から身を守るための免疫システムが正常に機能しなくなると、ヒトは感染症のみならずアレルギーや自己免疫疾患を発症する。癌の発症頻度の増加や高齢者に多い動脈硬化による心血管疾患などの慢性炎症にも免疫システムが関与する。これらの社会的に重大な疾患は「免疫システムの調節異常」という共通の観点で捉えることができ、近年の免疫学の基礎研究は目覚ましい成果をあげているにもかかわらず、研究の成果が有効な治療法の開発に結び付くケースは著しく少ない。その原因として、**疾病の治療法を体系的に研究し実践する「治療学」という学問分野の研究が、基礎医学と臨床医学の枠を超えてシステムティックに行われていないことや、「治療学」を推し進める人材を組織的に育成する土壌がないことが挙げられる。**

千葉大学は、100年以上にわたる臨床医学の確固たる実績を有するとともに、最近の大学院教育改革プログラムなどを利用し、癌や免疫に関連する疾患の領域で最先端の治療研究に携わる若手研究者を育ててきた。そこで、これまでの千葉大学の実績と強みを生かし、**難治性の免疫関連疾患（アレルギー、自己免疫疾患、癌、心血管疾患など）に特化した「治療学」の推進リーダーを養成するプログラム**を、医学と薬学が融合した大学院医学薬学府博士課程に組織し、領域横断教育と産学官連携によりグローバル社会で活躍する実践的なリーダーを育成する。特に、免疫関連疾患の病因や治療法、新規の治療技術等を深く理解しトランスレーショナルリサーチや臨床研究を統括指導する能力とともに、リーダーとして必要な人間力（多角的視点、俯瞰力、総合的判断能力、統率力など）を育み、将来、国内外の大学や研究所のみならず製薬企業等で新しい治療薬や治療法の開発を推進するリーダー、大学病院などの基幹病院で先端医療の開発・実践を統率する責任者や医療行政機関の指導者として活躍できる人材の養成を目指す。

<特色>

○社会で広く切望されている人材の育成

少子高齢化が進む日本社会で大きな問題となっている疾病に立ち向かい、画期的な新規治療法の開発研究リーダーを育成するための新規プログラムであり、必要性は極めて大きい。

○独自の大学院教育システムの導入

- ・国内外の幅広い分野（Open）から優秀な人材を選抜（Selection）
- ・多様な教員集団の領域横断教育と国内外の産学官連携教育及び複数の教授による多面的研究指導体制による独創的研究のサポート（Promotion）
- ・外国人（客員）教授を含む世界標準の学位審査制度（Certification）
- ・人材交流システムによる修了生の継続的キャリアパス支援（Interchange）

○国内外の専門分野を異にする第一級の研究者が結集

千葉大学の6部局から優秀で教育に熱意あるメンバー35名、連携機関から6名、国内外の様々な分野からの千葉大学客員教授14名がプログラム担当者として参画している。

○グローバルに活躍する実践的リーダーの育成プログラム

海外17大学・研究機関からの客員教授27名の協力による海外短期研修（実習）や国内外の企業14社や政府関連機関の協力による特論や研修（実習）を実施する。

○専用教育施設を核としたきめ細かなコースワーク

千葉大学の「未来医療教育研究センター」と附属病院内の「アレルギーセンター」が両輪となり、出身学部の違いなど学生の個性に合わせてローテーション演習などの柔軟で充実したコースワークを実施する。

○世界最先端の研究機関や先端医療の実績を誇る研究所との連携

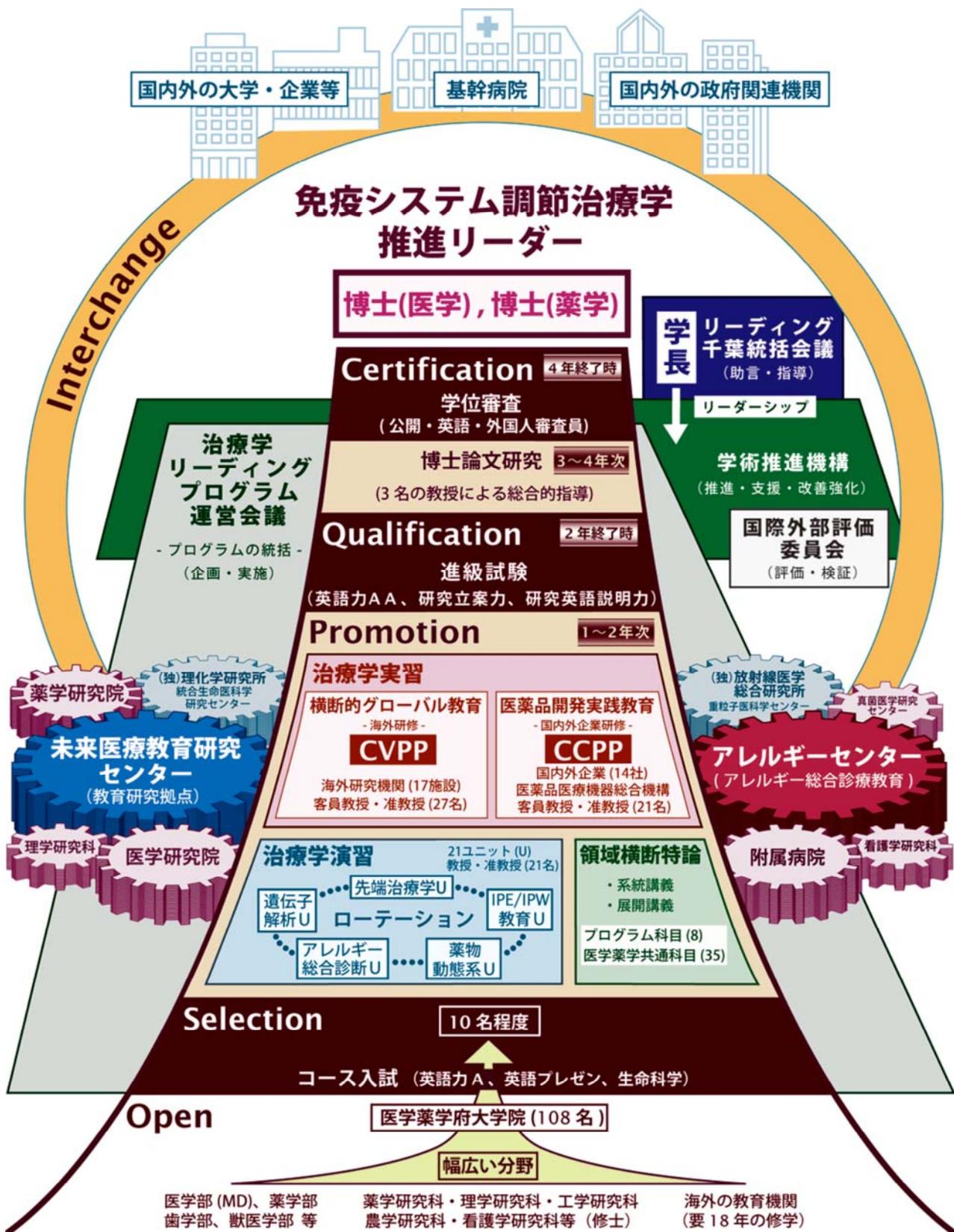
基礎免疫学研究のナショナルセンターである（独）理化学研究所統合生命医科学研究センターと、癌の重粒子線治療の先導的治療研究施設である（独）放射線医学総合研究所と連携したプログラムである。

<優位性>

千葉大学は、①免疫・アレルギー関連分野で卓越した研究者や指導者を多数輩出してきた伝統を持ち、②全国に先駆けて医学と薬学を融合させたユニークな大学院教育に取り組み、③基礎医学と臨床医学の統融合を目指した抜本的組織改革を進め、④癌の治療研究拠点として21世紀COEプログラム、⑤免疫・アレルギー治療研究拠点としてグローバルCOEプログラム実施等の実績を有する。これらの優位性のある実績と教育資源を活用し、免疫システムの調節に焦点を絞り治療学を推進するリーダーを養成するためのプログラムを構築した。

学位プログラムの概念図

(優秀な学生を俯瞰力と独創力を備え広く産学官にわたりグローバルに活躍するリーダーとして養成する観点から、コースワークや研究室ローテーションなどから研究指導、学位授与に至るプロセスや、産学官等の連携による実践性、国際性ある研究訓練やキャリアパス支援、国内外の優秀な学生を獲得し切磋琢磨させる仕組み、質保証システムなどについて、学位プログラムの全体像と特徴が分かるようにイメージ図を書いてください。なお、共同実施機関及び連携先機関があるものについては、それらも含めて記入してください。)



「博士課程教育リーディングプログラム」中間評価結果

機関名	千葉大学	整理番号	O03
プログラム名称	免疫システム調節治療学推進リーダー養成プログラム		
プログラム責任者	中谷 晴昭	プログラム コーディネーター	中山 俊憲

◇博士課程教育リーディングプログラム委員会における評価（公表用）

〔総括評価〕

計画どおりの取組であり、現行の努力を継続することによって本事業の目的を達成することが期待できる。

〔コメント〕

リーダーを養成する学位プログラムの確立については、学長を中心として全学できめ細かく管理、運営され、千葉大学の特徴を生かしたプログラムが構築されていることから、十分に評価できる。

産学官民参画による修了者のグローバルリーダーとしての成長及び活躍の実現性について、グローバルリーダー像の具体化については問題が残る。一方、CCPP(Chiba Career Path Professor Program)によるワークショップ等を開催し、グローバルリーダーの育成に種々の工夫を実施していることは評価できる。

グローバルに活躍するリーダーを養成する指導体制の整備については、学長を中心として大学が一丸となって取り組んでおり、継続性の観点からも評価できる。また、FD活動の推進に迅速に着手している点についても評価できる。

優秀な学生の獲得については、募集定員の10倍以上の入学希望者から学生が選抜されており、優秀な学生が獲得できていると判断できる。学生の意欲も高く、学生の自主性を重視した教育がなされている。

世界に通用する確かな学位の質保証システムについては、学位質保証のための取組やプログラムの自己評価が適切になされており、海外大学との国際学位共同プログラムを設置し、国際標準の学位審査システム構築が計画されるなど、本プログラムを世界標準での教育プログラムとして確立させようとする具体的な姿が見られることから評価できる。一方、グローバルリーダー像の教員間における共有は道半ばであるため、今後の努力が望まれる。

事業の定着・発展については、千葉大学が国立大学法人運営費交付金における3つの重点支援枠において「重点支援③（卓越した成果を創出している海外大学と伍して全学的に世界で卓越した教育研究・社会実装を推進）」の区分に決定され、その機能強化の取組の1つとして本プログラムを位置付けており、支援期間終了後も大学独自の経費により本プログラムでスタートした全科目を医学薬学府の大学院科目として維持することを決定しているなど、本プログラムの継続性の見通しが得られており、評価できる。